

# 稲作の農業体験

～ 田植えからお米になるまで～

2018年6月5日の田植え体験から10月24日にかけて行った、簡易田んぼによる稲作体験の実施記録と、収穫のまとめ。

- 1．田植えからお米になるまで：実施記録
- 2．稲の収穫体験と米作り：収穫体験プログラム
- 3．収穫量と実施記録：収穫量と収穫体験のまとめ
- 4．稲作の農業体験：年間スケジュール

増岡組環境技術研究所

2018年11月1日

# 稲作の農業体験

～ 田植えからお米になるまで～

2018年6月5日～10月24日にかけて行った、簡易田んぼ設備を使用した農業体験の記録

6月5日

キャンプ里地・里山で、田植え



6月22日

荒神町小学校に設置し、水張り



7月20日

50cmに成長



**8月30日**

幼穂：穂がたくさん出てきました。



**9月11日**

花：花が咲きました。花びらはありません。



**10月1日** 落水：田んぼの水を抜き、刈り取る準備に入ります。



穂が垂れています。  
ほとんどが、茶色に色づいています。



**10月16日** 稲刈り。 刈り取った稲は、束にして逆さに干します。 昔の田んぼでは「ハゼ」にかけます。



田んぼの「ハゼ」

# 稲の収穫から精米

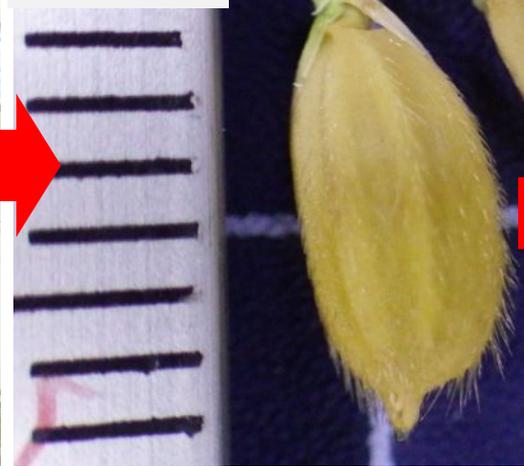
10月24日 稲刈りから、お米づくり



乾燥



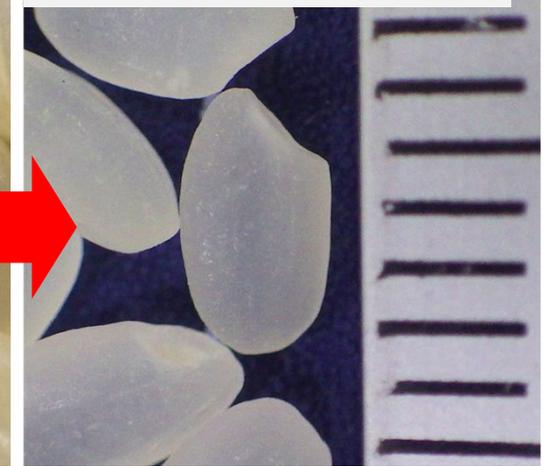
籾 (もみ)



玄米 (げんまい)



白米 (はくまい) 販売米



脱穀 (だっこく)



籾摺 (もみすり)



玄米収穫



稲の収穫体験と米作り（稲刈りから精米まで）：2コマ授業

実施日：10月24日（水）午後

目的：米作り農業体験により、自分たちで食べるものを自分たちで作ることを体験し、食の安心・安全を学ぶ。

事前に稲刈りをして干しておく（9割方：稲刈り体験用に1割を残しておく）

時刻	時間		場所	作業内容	道具・備品
13:00					
	45分	準備	校庭	シート敷、ネット撤去、道具の整理	ブルーシート
13:45	始業	集合		4人1組（5組）	
	5分	説明		稲刈りからお米を作る体験 軍手配り 鎌刈を見本	説明資料：軍手
	10分	稲刈り		ハサミで稲を刈る ヒモで結ぶ（束にする） 穂を取る	鎌（見本）、ハサミ（大or文具）、ひも
	10分	脱穀		牛乳パックで穂から籾を取る	牛乳パック（人数分）
	20分	籾摺り		鉢とボールで籾殻を取る 分離 玄米を見て、ビンに入れる	鉢、野球ボール、うちわ、小型扇風機
14:30			校庭	教室に持ち帰る	
	10分	休憩時間	移動		
14:35			教室	継続して校庭で可：石が混じらないように。	
	25分	精米		精米作業の1回目 ふるいをかけ（ぬか除去） 2回目	ビン、突き棒（10セット） ざる（2個）
	5分	集積		集めて、ぬかを除去（ふるい） 全量確認	入れ物、計量カップ大
	5分	配分		各自に分ける（透明な袋入れ）	計量カップ小、ビニール袋
	10分	振返り		お米からご飯へ。質疑応答。	米の観察と炊飯の説明
15:20	終業			終了	
	40分			田んぼの片づけ。積み込み。	
14:00				撤収	

レンゲの種まき：稲刈り 耕耘 種のばらまき（発芽するには日当たりが必要 被覆しない）

## 田んBOXの収穫量と所要時間

1 BOX当たり	稲：30株	面積1m×1m	所要時間 1名作業	6基分 1名作業時間
刈取り	稲：6束	文具ばさみで刈る 縄で結んで干す 7～10日ほど干すと脱穀しやすい	15分	2時間
		1束=片手でつかめる量：直径6、7cm程度 60穂		
脱穀	籾：300cc	1束当たり籾50cc。牛乳パックで15分（藁の処分）	90分	9時間
籾摺り	玄米：150cc	籾100ccをすり鉢+軟式ボールで10分 吹飛ばし5分 分別10分	90分	9時間
		籾100cc 玄米50cc+籾殻。（籾殻の処分） 初期精米の米が多く有り		
精米	白米：	ビンに入れて、突き棒で突く：2合程度を10分1セットで3回（糠の処分）	30分	3時間（5合）

## バケツ田んぼ収穫量

40バケツ	玄米：約3合	520cc（1バケツ当たり13cc：1合作るのに14バケツ）
-------	--------	--------------------------------

# 簡易田んぼを使用した農業体験年間スケジュール

番号	月	項目	内容	備考	体 験	月												
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1	4月	レンゲの開花	根粒菌で空気中の窒素を肥料に			■	■											
2		(苗づくり)	種籾から芽を出す	田植え時期に苗を調達	×	■												
3	5月	田起こし	耕運と肥料撒き	緑肥のすき込み、肥料			■											
4		水張り	水を張る(5cm)	元肥(一発肥料)			■	■		5cm	田植え後2週間で10cm程度							
5		代掻き	土をかき混ぜ、均す	田植えと同じ日でも			■											
6	6月	田植え	苗を植える	苗を調達。メダカで防虫			■	■	5月末から6月初旬									
7		水位調整	根が付くと10cm程度	1日朝夕2回注水で満水保持			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
8	7月	除草	雑草を取る(週一程度)	気が付いたときに行う				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
9		中干	1週間程度、水を抜く	やらなくても良い					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
11		追肥	肥料の追加	必要に応じ					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
10		稲の生長観察	50cm程度						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
12	8月	稲の生長観察	幼穂が出る							■	■	■	■	■	■	■	■	■
13	9月	稲の生長観察	花が咲く 穂が垂れる								■	■	■	■	■	■	■	■
14		防鳥対策	防鳥ネット張り	カカシも可能							■	■	■	■	■	■	■	■
15	10月	落水	稲刈り前に水を抜く	籾が85%程度黄色の時期								■	■	■	■	■	■	■
16		稲刈り 自然乾燥	稲刈り体験	ハゼに干して1週間程度									■	■	■	■	■	■
17		米作り体験	稲穂 籾 玄米 白米	脱穀、籾殻取り、糠										■	■	■	■	■
18	11月	レンゲの種まき	乾田の整備	レンゲの種、稲株の切下げ											■	10日程度で発芽		
19	12月	レンゲの成長		冬季はロゼッタ状											■	■	■	■

米作り農業体験により自然の恵みと命のつながりを学ぶ環境教育活動です。

自分たちで食べるものを自分たちで作ることを体験し、食の安心・安全を学ぶ。

時間・手間・空気・水、食物にかかわる農業生産現場の理解を深める。

植物を育てることにより植物を学び、それを通し、自然に対する感性と、環境理解による豊かな感性を育てる。